

東京 IPO 特別コラム

2018年9月3日 Vol.128

秋相場が到来する中で有望IPO銘柄を見出す

大型台風接近の中、秋の気配が漂い始めた日本列島。株式市場も秋相場を迎え、多少は前向きな展開を期待したいところです。ところが、NASDAQの高値更新など米国株の堅調さが見られるのに対して、日本株はまだ積極的に上値を追う展開にはなっていない。日経平均は23000円を前に頭重い展開で戻りかけたマザーズやNASDAQ指数など中小型株指数も迫力に乏しいまま推移しています。とはいえ、秋相場は来年に向けた前哨戦の位置づけでもあり、企業努力によって様々な投資チャンスが生まれるタイミングでもありますので、投資家の皆様はできるだけポジティブな取り組みを心がけて頂きたいと思います。

中小型銘柄の調整が続く中で、7-8月のIPO12銘柄のうち、さすがに公開価格割れは見られませんが、10銘柄が初値を下回っており、全般的に不人気の状況が見出せます。ただ、8月下旬にかけてついた安値に対しては概ね上昇傾向が見られますので捲土重来と言ったところです。

こうした相場展開の中、IPO市場には9月6日のナルミヤ・インターナショナル(9275・東証2部・ベビー・子供服の企画販売)及びand factory(7035・マザーズ・モバイル広告掲載無料スマートフォンアプリの提供、IoT技術を導入したスマートホテル「&AND HOSTEL」の共同運営)から10月3日のブリッジインターナショナル(7039・マザーズ・法人営業改革支援)まで14の銘柄が登場予定。今年の累計では62社がIPOすることになります。この中には1度上場していた株式を非公開化したナルミヤ・インターナショナルやワールド(3612)などの振り返り銘柄、SBIホールディングスグループのSBIインシュアランスグループ(7326)など事業規模の大きな銘柄もありますが、そのほかは概ねまだ事業規模は小さいようです。短期、中長期の取り組みでどういう銘柄に注目すべきかは、皆様の裁量に委ねられますが筆者は成長期待と需給の良さは現状の事業規模が小さい銘柄に見出せると感じています。

IPO銘柄は短期投資家の関心を集めやすいため、好需給で短期に急騰するとその後の株価は下落トレンドを辿りがちです。今後のIPO銘柄もまずは公開価格に対して初値の動向が気になるかと思いますが、東京IPOサイトなどでしっかりと吟味願いたいと思います。短期売買が苦手な投資家には過去1、2年以内にIPOした銘柄をじっくりと吟味されて投資対象を選定した上で銘柄を分散しながら運用されると良いかと思います。ここでも東京IPOサイトが役立つかと思います。前号で取り上げたIPO後の大幅値下がり銘柄など様々な投資対象が出て参りますが、ぜひ中長期視点でユニークなIPO銘柄を見出して頂ければと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)